

平成30年度学校経営方針

南中の新たな歴史と伝統の創造

はじめに

授業改善や落ち着いたある校内生活、元気な挨拶や器物破損の減少、部活動での活躍や行事の充実など、メリハリのある学校生活の実現で多くの成長が見られた。特に3年生がリーダーとして活躍し、その姿を見て1,2年生が学び成長していく縦割り活動の進展が明るく前向きな校風をつくっている。昨年度は、学級減による完全縦割りの運動会を継続して成功させることができた。課題も依然として残されているものの、生徒の成長を地域ぐるみで支え合う「地域とともにある学校」づくりが進んでいる。生徒数減による学級減や教員減も一段落し、南中のこれまで大切にしてきた特色ある教育活動の意義を大切にしながら変革を進め、「社会に開かれた教育課程」を創造する。「力合わせ」の更なる推進により、職務効率を通年的に高め、「学校における働き方改革」を実現する。「部活動休養日等の完全実施」を含め、各種通達を踏まえた「持続可能な部活動指導体制」を構築して実践する。

校訓 正義 博愛 健康の意味

この校訓は昭和34年に制定され、正義は知を、博愛は情を、健康は意を含めた体を表しており、現在の学習指導要領の「確かな学力」「豊かな人間性」「健康・体力」のバランスのとれた「生きる力」の育成に他ならない。南中はこの知情意体のバランスのとれた育成を目指している。

南中教育の鑑^{かん}「学びあい」

南中教育の特色は「基礎学力とわかる授業」「基礎体力と生活リズム」「街づくりと南中ソーラン」であり、それを機能させるのが「学びあい」活動である。行事や部活動などの場面では「学びあい」活動が機能し着実に進展している。昨年度は、「学びあいのある授業づくり・学級づくり」を南3校で共通に研究し、地域連携研修を生かして実践を積み重ねた。今後も、南3校で「学びあい」を土台とした「授業づくり・学級づくり」に挑戦し、充実した実践を継続する。「学びあい」活動とは「人間関係づくり」と同義であり、「授業づくり」のみならず「学級づくり」も含めた全ての南中の教育活動の鑑となる。また、この「学びあい」は生徒同士だけではなく、教師同士、親同士、生徒と教師、保護者と教師など「親育ち」「教師育ち」の「学びあい」でもある。

平成30年度経営の重点～社会で生きてはたらく力をそなえた南中生を育む

(1) 教育目標 (平成28年度改訂)

自ら考え判断し、仲間と協力してやりぬく生徒～自立と共生を目指して

(2) 目標設定の理由～生徒実態から出発し新学習指導要領を見通した学びを

瞬発力(本番でパワーを発揮、やる時はやる)はあるが、持久力(先を見通し、粘り強く努力する)に弱さの見える南中生。素直で明るく人なつつこいが、話を聞けない、人を傷つける言動など、相手の気持ちを思いやることに弱さがある。自らの頭で考え、先を見通し、判断し、最後まで粘り強く努力する生徒、相手の立場に立って考え、まわりと協力して生きていく生徒の育成を目指す。

(3) 重点課題(南中生・南3校共通に育てる3課題)～小中連携・一貫性の向上

- ①学力向上(「学びあいのある授業」「論理的思考力の向上」「生活リズムと家庭学習習慣」)
- ②他者と関わる力(聞く力、表現する力などコミュニケーション力)
- ③感謝と思いやりの心(道徳や講話、感謝する・される、思いやる・やられる体験活動)

学力向上は、教師の授業改善が不可欠だが、学校だけの努力ではなし得ない。子どもの生活実態、携帯やスマホの弊害、子どもの貧困など、南地区の子ども達の置かれている深刻な現状に目を向け、小学校やPTA、地域・関係機関と連携・協働して、中学校区の子育て運動の再構築を図り、学力向上による「生きる力」の育成に努めていく。今年度も、メンター研修やOJT等、同僚性を基盤とした教師同士の「学びあい」を大切に、教師個々・集団としての資質向上を図る。稚内市の子育て運動を土台に子どもの貧困問題対策にも取り組み、「地域とともにある学校」づくりを進め、一人ひとりの生徒の成長を実現する。